

2024年度 一般入試① 問題 (社会)



問題 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

みなさんは今日の試験のために、たくさん勉強をしてきましたよね。でも、勉強をしながら、なぜ入試で試されるのが国算理社の「学力」ばかりなのか、疑問に思ったことはありませんか。例えば、「足の速さ」や「気持ちのよいあいさつ」が中学入試で評価されれば…と思う人もいないのでしょうか。最近では学力以外の能力を評価する試験も増えていますが、今も多くの入試では学力が試されています。それはなぜでしょうか。一歩立ち止まって、少し考えてみることにしましょう。

①江戸時代までは、一般庶民が学力を試されることはあまりありませんでした。なぜなら、江戸時代まで日本には身分制度が残っていたからです。しかし、②明治維新以降、形式的には身分制度が廃止されたことで、多くの人々にとって努力することに意味が生まれてきました。というのは、努力次第で優れた学歴をつけることができ、生まれた家庭よりも高い収入を得て、経済的に豊かな生活を送ることができると考えられるようになったからです。特に高度経済成長期以降は、働く人々に学力や専門的な知識などがますます求められるようになっていきます。その中で、経済的余裕をもった一般家庭の多くは「努力の積み重ねこそが、豊かな生活につながる」と考え、子どもの学力を伸ばすために、塾や習い事に積極的に通わせるなど、教育にお金と労力をかけるようになっていきました。

勉強は自分の工夫で努力を重ねやすく、学力試験の点数はおおむね客観的であるため、努力の成果を学力で評価されることに対しては多くの人々が納得していました。また、学力には③多くの仕事にとって必要な能力が含まれるので、その水準が高いほど、大学や会社に評価されると考えるのは自然なことです。しかし、それを先ほどの「気持ちのよいあいさつ」で考えてみると、採点者の好みで点数が変わると思いませんか。例えばある人は「声の大きさ」が、別の人は「おじぎの角度」が一番大事だと考えるかもしれません。「『気持ちいい』と感じる声の大きさ」も採点者によって違います。そうすると、採点者の好みという「運」によって自分の評価が変わってくることになるので、答えが1つしかなく客観的に点数化しやすい学力こそが、能力を評価する基準として、④多くの人々が納得する公正なものだと考えられてきたのです。

このような考え方は、現代の社会にも深く根付いています。2017年の「2021年度から実施される『⑤大学入学共通テスト』の国語・数学において記述式問題を導入する」という文部科学省の方針の発表を受けて起こった世間の混乱は、それを浮き彫りにした出来事でした。長らく続いた「大学入試センター試験」では「すべて選択式の問題で、解答を《写真》のようなマークシートに記入し、機械で読み込んで採点する」という方法であったため、この方針発表は入試システムの大転換を意味していました。しかし、発表を受けてすぐに⑥「共通テストに記述式問題を導入することで、試験の公平性が著しく損なわれる」として、導入への激しい反対が日本各地で起こったのです。その結果、文部科学省は2019年に記述式問題の導入の見送りを正式に決定しました。



一方で、多くの人々が、今までの学力重視の入試のあり方に疑問をもっているのも事実です。高度経済成長期以降の日本の教育における学力とは、多くの場合「知識の量」を意味し、勉強の努力を重ねるということは、多くの知識を覚えることでした。しかし、多くの知識を覚えたとしても、それは判断力や行動力、上手に人間関係を築く能力とは別です。そのため、1990年代以降、知識に偏った学力や試験は批判され、実際の社会の中でより役に立つ力を重視すべきであるという主張が多くなっていきました。こうした中、最近の大学入試は、積極的に知識以外の能力も評価するものに変化してきています。発想力や表現力、対話力などに加え、学級委員や部活動、さらには留学・ボランティアといった学校内外での経験などを評価する入試が増えてきているのです。⑦その試みは、学力というひとつの側面だけではなく、受験生の能力を総合的に評価しようとするものです。しかし、受験生にとっては選択肢が増えることにつながる一方で、現在のところ多くの課題を抱えていて、時には批判を受けることもあります。

いったい、どのような入試が望ましいのか、今後も議論は続きそうです。とはいえ確かなことは、この議論とは別に、みなさんがこの数年間の努力で獲得してきた知識と経験は、かけがえのないものだということです。そして、そうした努力の積み重ねの中で「点数化できない素敵な側面」をみなさんは多く培ってきているはずです。この入試でどのような結果になったとしても、4月からは中学生として、それぞれの場所で、その素敵な側面を家族や友人、先生たちにたくさん見せてあげてください。それらは間違いなく、みなさんがこれから公平・公正な社会を形作る上で、「点数」や「偏差値」、「学歴」よりも、はるかに価値があるものなのですから。